

令和3年度技術移転に係わる 目利き人材育成プログラム

研究推進マネジメントコース【ベーシック編】
B課程「産学官連携の推進に必要な基本姿勢と
リスクマネジメントの在り方」

日時：2021年8月19日（木）10:00～17:00

形式：オンライン開催（ZOOM）



【タイムテーブル】

- ◇趣旨説明・注意事項 9:50～10:00
- ◇講義①「産学連携リスクマネジメント」10:00～12:00
- ◇ワークショップ「技術移転に関する業務課題の解決に向けて」13:00～14:30
- ◇講義②「産学官連携とのかかわり方と基本姿勢」14:40～17:00

講義①「産学連携リスクマネジメント」

【講義概要】



東京医科歯科大学 副理事
統合イノベーション推進機構
教授・産学連携研究センター長
飯田 香緒里 講師

産学連携リスクマネジメントの全体像を俯瞰し、近年の傾向から留意すべきリスクについて把握するとともに、産学連携活動における研究契約の遵守や違反の予防などを組織としてどのようにマネジメントしていくか、その方法についてケース事例を通じて検討しました。後半の質疑応答では、多くの質問が寄せられましたが、研究者の利益相反マネジメントにおける自己申告の信頼性について、申告漏れしないように分かりやすいシートを作ること、臨床研究法の判断基準が参考になること、ベンチャーを有する研究者は弁護士を交えることなどのアドバイスがありました。まとめとして、リスクマネジメントはブレーキではなく産学連携活動を推進するためのハンドルであり、連携してガバナンスする必要があること、研究者の理解が前提となるためリスクマネジメント教育の実施を行うことが述べられました。また、リスクについての情報収集は必須であるため、外部のネットワーク構築の場の1つとして、目利き研修を活用したらどうかという提案がありました。

【受講者の声 ～事後アンケートより～】

- ・「利益相反」については、あまり理解ができていなかったが、講義を受け、所属機関においてはどのようになっているのかを調べるなど意識が変化した。**教員からの共同研究契約相談の際にもヒアリング時に利益相反のリスクがあることを把握でき、COI マネジメントの担当部署を交えたうえで対応を進めることができる。**
(国立大学)
- ・共同研究契約書のどの条項にリスクが潜んでいるかを学び、レビューを重点的にすべき箇所が認識できた。また、怖い事例から契約締結の際に注意すべきポイントが把握できた。普段のレビューの際に留意したい。(国立大学)
- ・「利益相反」について俯瞰して捉えること、職員として対応が必要な事態はどのような場面なのかを想像することができた。**教員から相談があるときは協力、介入の機会でもあるため、日頃からの知的基礎体力の蓄積が必須であり、研究遂行のためには、現在の業務と直接かかわりがないことでも地道にリサーチを続けよう**と考える。(私立大学)
- ・実際の取り組み事例の紹介を踏まえた講義であったため、自分の大学でも「この取り組みは導入できないか」と考えながら聞くことができた。研究者への契約サマリーの提供、研究重複管理、学内での啓蒙活動の方法など、自組織への導入を検討したい。(私立大学)
- ・リスクマネジメント管理について、人員も不足し、機関として何をしたら良いか分からなかったが、具体的な事例を交えて基本から講義いただいたことで、今後どのようなことを進めていけば良いか、**方針が明確になった。**(私立大学)

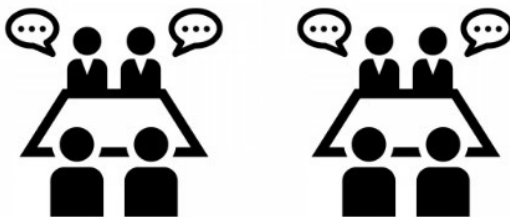


【概要】

ワークショップでは、研究成果の社会実装に向けた活動について、ワークショップ後の野口講師の講義「産学官連携とのかかわり方と基本姿勢」におけるポイントも踏まえて5つの設問をテーマにグループに分かれて意見交換を行いました。グループ討議では、全員が持ち回りでファシリテートと書記を担当しました。自機関での取り組み状況や自身の業務課題などを紹介しながら課題の検討を行うことで、ネットワーク形成の場として有意義な時間となりました。

【受講者の声 ～事後アンケートより～】

- ・ 討議したことで産学官連携に関わる上での自分の考えや姿勢を整理することができ、より信念を持って業務に取り組めると思った。また、互いに win-win になることを目指すなど、取り入れたい姿勢などもあり、自分の業務姿勢としても活かしたいと考える。(国立大学)
- ・ 事務職とは異なる立場の方（コーディネータ）がメンバーにおられ、**コーディネータ目線での研究補助業務が知れたことが、本学でのコーディネータとの連携に大変役に立つ**と思った。(高専)
- ・ 研究者目線の意見として「事務的ではなく、明るくて話しやすい雰囲気がい」との発言があり、自身の業務で活かして行こうと思った。また、**グループのメンバーが、中長期的な視点を持ち、研究者のことを第一に考えていることがわかり、自身の業務への姿勢を顧みる機会となった。**(国立大学)
- ・ **企業との連携・研究成果の展開などの視点で、産学連携に取り組まれている他大学の話しを通じて、個々の契約業務だけでない大きな視点をもつことの必要性を感じた。**今後の業務に反映させていきたい。(私立大学)
- ・ 他機関の方が実際にされていることや気をつけておられることなどを聞いたので大変参考になった。**ワークショップを通じてネットワークを構築することができ、今後も生かせる大変貴重なネットワークとなった。**(私立大学)



講義②「産学官連携とのかかわり方と基本姿勢」



立命館大学
研究部 事務部長
産学官連携戦略本部
副本部長（兼務）
野口 義文 講師

【講義概要】

研修2日間の最後の講義では、「産学官連携とのかかわり方と基本姿勢」について学びました。冒頭、野口講師より、「想定外の交渉が想定される産学連携では、課題に向き合って乗り越えられる人材が求められる。この目利き研修では、“目利き力”と“ネットワーク力”、情報を加工して成果にする力を身に付けて欲しい」旨、発言がありました。後半は、直前のワークショップでの検討を踏まえた質疑応答があり、多くの質問が寄せられました。“産学連携を楽しんで進めること”については、やりがいや、ポリシー、職員の立ち位置などを確認し、そこに知見を積み、ネットワークを活かしながら目標設定をすることが大切であること、また上層部を動かすことが、組織のガバナンス改革に繋がるとのアドバイスがありました。

【受講者の声 ～事後アンケートより～】

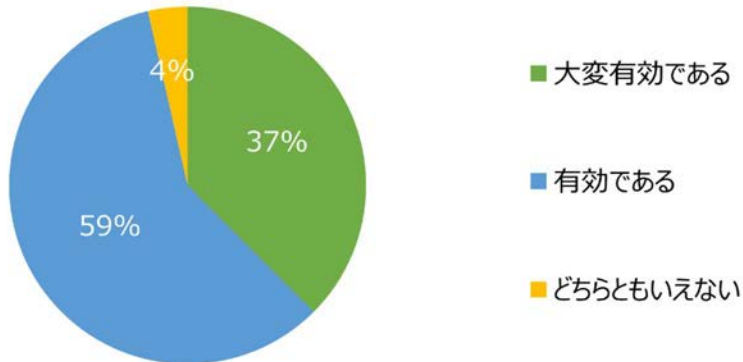
- ・産学連携に興味を示していただけない研究者へのアプローチの方策や、研究者との価値観の相違の埋め方を学んだ。**単なる支援者ではなく、教員とともに挑むものの魅力を十分に理解し、生み出される成果のため、楽しんで挑戦できるマインドを醸成したいと思う。**1件の成功事例に向けて、自ら飛び込み、実践したい。(私立大学)
- ・産学連携推進に向けて、具体的な策がなかなか見つからず苦慮していたが、**学内シーズの把握方法や産業界のニーズ把握にはどういったことが重要かなど多くのことを学ぶことができた。**(私立大学)
- ・「研究推進力を高めるためには」の**目標達成シート（マンダラチャート）を活用して、本学で検討漏れ、取りこぼしがないかチェックしたい。**(国立大学)
- ・**時世を読むテクニックなど積極的に使っていきたい。**また、「相手を知るためには自分から」ということを意識しながら業務を進めていきたいと思う。(独法・国研等)
- ・本学における産学連携について、自己理解の振り返りのきっかけとなり、自分の不十分な部分を理解することができた。今後、自己啓発やOJTでカバーし、自己スキルアップに努めたい。また、**業務姿勢やコミュニケーションを円滑にするヒントは、自身の業務を円滑にするのにとっても役立つと感じ、すぐにでも実践していきたい。**(国立大学)



研究推進マネジメントコース ベーシック編 B 課程 事後アンケートより

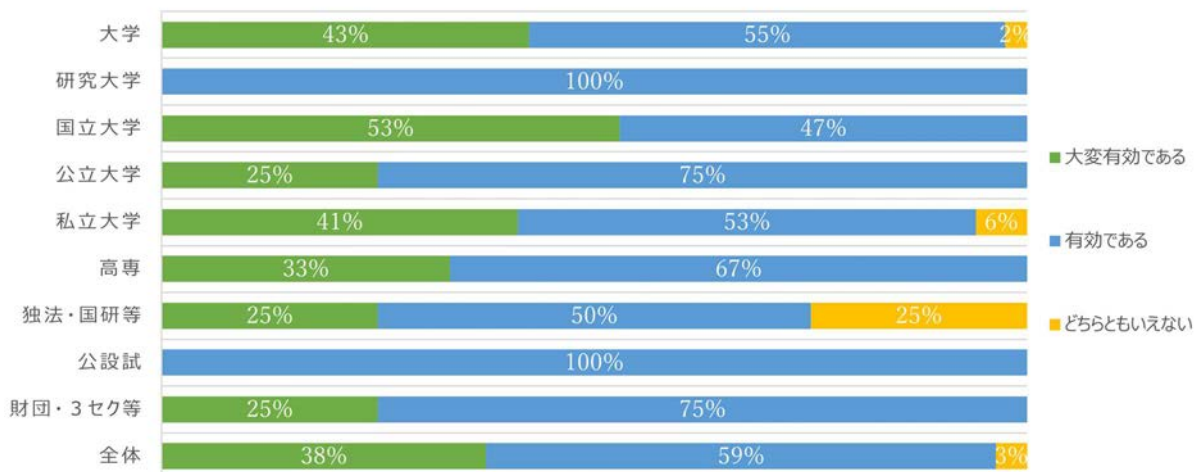
【有効度】

[全体構成比]

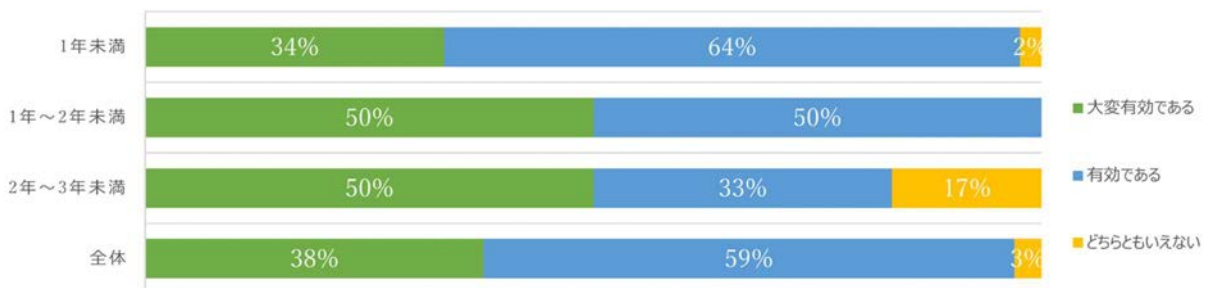


有効度
96%

[機関別構成比]



【経験年数別構成比】 ※ベーシック編は、業務経験3年未満の方を対象としている。



ベーシック編受講者所属機関

<国立大学>

北見工業大学/弘前大学/東北大学/埼玉大学/千葉大学/新潟大学/金沢大学/福井大学/信州大学/名古屋大学/京都大学/神戸大学/奈良女子大学/奈良先端科学技術大学院大学/広島大学/徳島大学/長崎大学/熊本大学/鹿児島大学

<公立大学>

宮城大学/秋田県立大学/横浜市立大学/高知工科大学

<私立大学>

昭和大学/聖路加国際大学/中央大学/帝京大学/東京女子医科大学/日本医科大学/早稲田大学/麻布大学/中京大学/長浜バイオ大学/京都橘大学/大阪工業大学/大阪産業大学/関西学院大学/広島修道大学/福岡大学/沖縄科学技術大学院大学

<高専>

群馬工業高等専門学校/東京工業高等専門学校/富山高等専門学校/福井工業高等専門学校/鳥羽商船高等専門学校/北九州工業高等専門学校

<独法・国研等>

日本スポーツ振興センター/理化学研究所/海洋研究開発機構/神奈川県立産業技術総合研究所

<公設試>

東京都立産業技術研究センター/広島県立総合技術研究所

<財団・3セク等>

岩手生物工学研究センター/千葉県産業振興センター/京都知恵産業創造の森/北九州産業学術推進機構
以上 56 機関

ベーシック編全体を通して一番良かった点

- ・ 講師の方々の経験に基づいた事例の紹介、どの時点でどのような手を打つとよいかという受講者の業務に切実な切り口で解説いただき、今後の業務のヒントがたくさん得られた。
- ・ 各講義で質疑応答の時間を多く設けていただき、疑問点や悩みなどに対して講師の方々の回答を直接お伺いできたのが大変ありがたかった。
- ・ 今自分が知りたかったこと、悩んでいたことに対しての答えが見つかり、少し自信をつけることができた。事例が具体的でどのように実践していけばよいか、とても分かりやすく説明いただけて最良の研修だった。
- ・ 普段はお話を聞けないような先生方の実際の経験を交えた講義、様々な場所・規模の機関の方と交流ができたことがよかった。
- ・ ワークショップで今後何かあれば相談できる方々と知り合えたことが一番良かった。